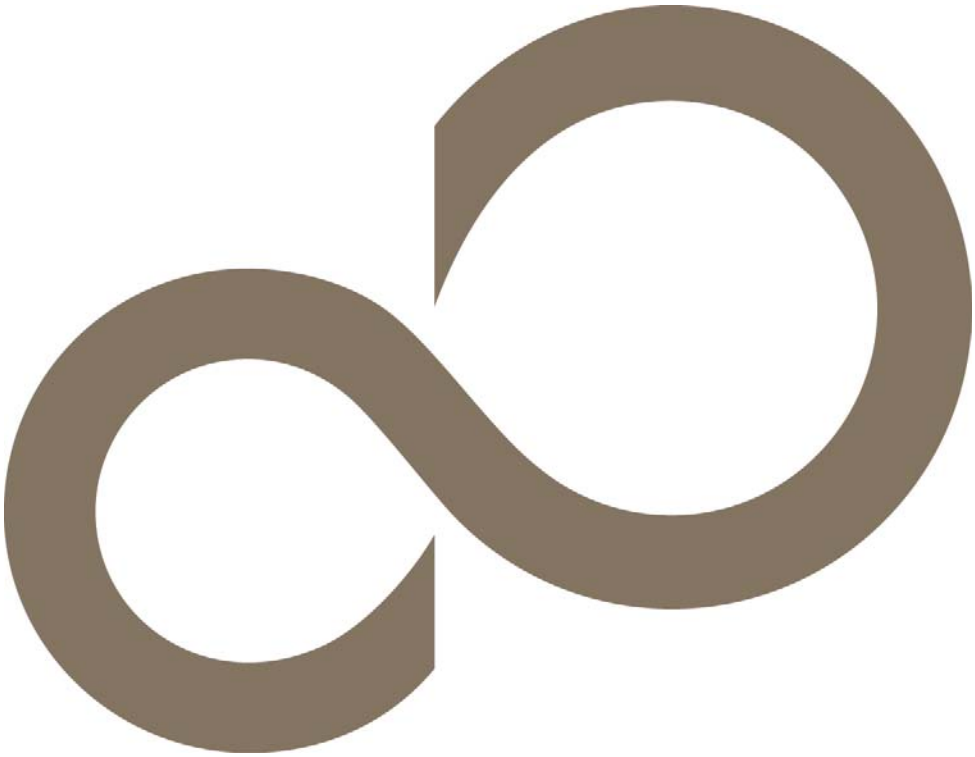
PRIMERGY



取扱説明書

１７インチ ラック・コンソール(RC25)/PG-R4DP1

FUJITSU

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

ハイセイフティ用途での使用について

本装置は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本装置を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

注意：スライド／レールを取り付けた機器は、棚または作業空間として使用しないでください。
Caution: Do not use device units mounted on pull-out rails as a surface on which to put things or as a work surface, and strictly avoid leaning on or against them.

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2010

目次

ハイセイフティ用途での使用について

１．はじめに 1
２．表記規則 1
３．本装置の開梱 1
４．重要なお知らせ 2
５．安全性 2
６．本装置の運搬 3
７．取り付け 4
　７－１．　本装置の取り付け 4
　７－２．　取り付け手順 4
　　７－２－１．　ケーブルマネージメント部の組立 4
　　７－２－２．　Rack Mount Kit の取り外し 5
　　７－２－３．　Rack Mount Kit の取り付け 6
　　７－２－４．　ラック・コンソールの挿入 8
　　７－２－５．　ケーブルマネージメント部の取り付け 8
８．ケーブルの接続と取り外し 9
　８－１．　ケーブルの接続 9
　８－２．　ケーブルの取り外し 10
９．ＫＶＭスイッチの組み込み 10
１０．操作 11
　１０－１．　本装置の操作 11
　１０－２．　本装置の格納 12
　１０－３．　モニタの調節 14
　１０－４．　基本的な調整方法 15
　１０－５．　調整項目 16
　１０－６．　解像度とリフレッシュレート 16
　１０－７．　LCD の表示に関する注意事項 17
　１０－８．　キーボードの操作 18
　１０－９．　ポインティングデバイスの操作 19
　１０－１０．　Hot-key スイッチと Reset スイッチについて 20
１１．トラブルシューティング 21
１２．本装置のお手入れ 23
１３．環境への配慮のお知らせ 23
１４．技術仕様 24

1.はじめに

このたびは、１７インチ ラック・コンソール(RC25)/PG-R4DP1（以降、ラック・コンソールまたは本装置と呼びます）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本装置をお使いになると、ラック作業空間の効率と機能が大幅に改善されます。また、コンパクト設計のスライドモジュールの採用で、従来のソリューションに比べてより広くなるスペースを別のコンポーネントに利用できます。
17型TFTモニタの解像度は1280 ×1024 で、表示色は1,677 万色です。
また、日本語キーボードと2ボタンスクロール機能付きポインティングデバイスを備えています。

2.表記規則

この説明書で使用している記号と文字の意味は次のとおりです。

⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害（本装置の損害など）が発生する可能性があることを示しています。
Point	この記号のあとの文書は補足説明､注釈､ヒントです。
カギ括弧「 」	参照する章またはドキュメントのタイトルと用語を強調しています。
( )で囲まれた数字	順序にしたがっておこなう必要がある操作を示しています。

3.本装置の開梱

開梱は、本装置に添付の「クイックスタートガイド」の手順、注意に従って作業を行なってください。

⚠ 注意

・本体を取り出す際､ポリシートごと持ち上げた場合､手がすべり､装置が落下し､けがや装置の破損の恐れがありますので､必ずポリシートを広げ､本体を直接持ち上げてください。

4.重要なお知らせ

5章、6章には、本装置で作業する際に注意しなければならない、安全性に関する情報を記載しています。よくお読みのうえ、正しくご使用ください。

5.安全性

⚠ 注意 安全上の注意

- 本装置を運搬する際は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か同等の箱を使用してください。
- 本装置の取り付け中と使用前に、「14. 技術仕様」の環境条件についての記事と「7. 取り付け」の記事をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ温度になってから使用してください。
- 本装置を接続するコンセントの電圧がこの装置の許容範囲であることを確認してください。定格電圧がこの装置にあうようにされていることを確認してください(「14. 技術仕様」と本装置の型式銘板を参照してください)。
- 本装置の電源ケーブルは特別に認可されたものです。ラックの電源コンセント以外には接続しないでください。感電、短絡の原因になります。
- 本装置の電源ソケットまたはラックの電源コンセントの周辺は、プラグの抜き挿しがすぐにできるようにしてください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続したり取り外したりするときは、「7. 取り付け」の該当部分を参照してください。
- 雷雨のときは、データケーブルを接続したり取り外したりしないでください。
- 本装置の内部に異物(ネックレスやクリップなど)や液体が入らないようにしてください。
- 緊急の場合(筐体、部品、またはケーブルの損傷、液体や異物の侵入など)は、ただちに本装置の電源ケーブルをはずして、お買い求めの販売店または担当保守員に連絡してください。
- 本装置を修理できるのは資格のある技術者だけです。資格のないユーザーが本装置を開き誤った修理をおこなうと、感電や火災などの原因になることがあります。
- 本装置を引き出した状態では、装置の角などに身体をぶつけると危険ですので十分注意して操作してください。
- 本装置を使用しない場合や本装置以外のサーバや周辺機器などを操作する場合には、本装置をラック内に格納することを推奨します。
- 体調の悪い状態でのキー打鍵や長時間の連続キー打鍵は避けてください。
- ケーブルは強く引っ張らず、必ずコネクタ部を持って抜いてください。
- 濡れた手での使用は避けてください。
- 濡れた手でコネクタの抜き挿しをしないでください。
- 本装置の上には、コップなど不要な物をおかないでください。
- 改造または修理をしないでください。

- 警告マーク（稲妻マークなど）が付いている部品（電源装置など）の分解、取り外し、交換は、資格のある人以外はできません。
- 「モニタの調節」で指定されている解像度とリフレッシュレートしか設定できません。ご不明な点は、お買い求めの販売店または担当保守員にご連絡ください。
- 損傷しないようにすべてのケーブルを配置してください。ケーブルを接続または取り外すときは、「8.ケーブルの接続と取り外し」の該当部分を参照してください。
- 周辺機器用のケーブルは、干渉を防ぐために適切な絶縁処理が必要となりますので、専用のケーブルをご使用ください。
- 本装置を接続するコンセントに給電している電圧を切断するときには、本装置の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 本装置を清掃するときは、「本装置のお手入れ」の該当部分にしたがってください。
- 本説明書は本装置とともに大切に保管してください。本装置を第三者に譲渡する場合は、本説明書も譲渡してください。
- 本装置を引き出した状態で、脚立代わりに使用したり、よりかかったりすると、ラックが転倒する可能性があるので危険です。
- 本装置を安定した状態でご使用になれる期間（耐用年数）は5年が目安です。※1日8時間で月当たり200時間動作、使用環境が25℃を想定した場合の目安です。ただし、有寿命部品を除きます。

6.本装置の運搬

⚠ 注意

本装置を別の場所に運搬する際は、購入されたときに本装置が入っていた箱か、衝撃や振動から製品を保護できる箱を使用してください。運搬処理がすべて完了するまで、本装置は開梱しないでください。

7.取り付け

⚠ 注意　「重要なお知らせ」の安全上の注意をよく読んでください。

7－1. 本装置の取り付け

⚠ 注意　設置環境を守ってご使用ください（「技術仕様」を参照してください）。ほこり、湿度、熱を避けてください。必要な場合は、取り付けを 2 人以上でおこなってください。本装置とガイドレールの間に、指や手を挟まないように注意してください。

7－2. 取り付け手順

7－2－1. ケーブルマネージメント部の組立

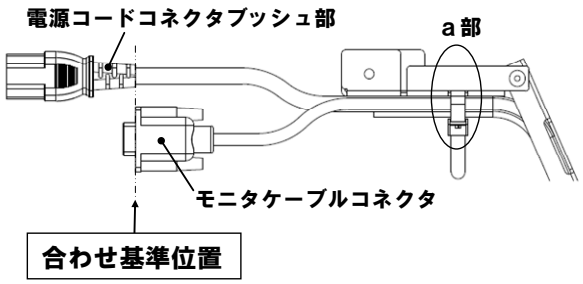
（1）付属品箱から、ケーブルマネージメント、モニタケーブル、キーボード・マウスケーブル（PS/2 ケーブル 2 本または USB ケーブル 1 本）、電源ケーブル、リリースタイ 6 本を取り出します。

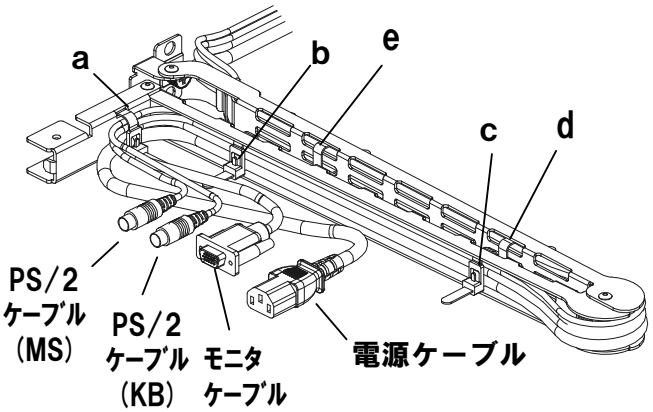
（2）各ケーブルをリリースタイによりケーブルマネージメントの a 部から固定し、b→c→d→e→f の順番に固定します。

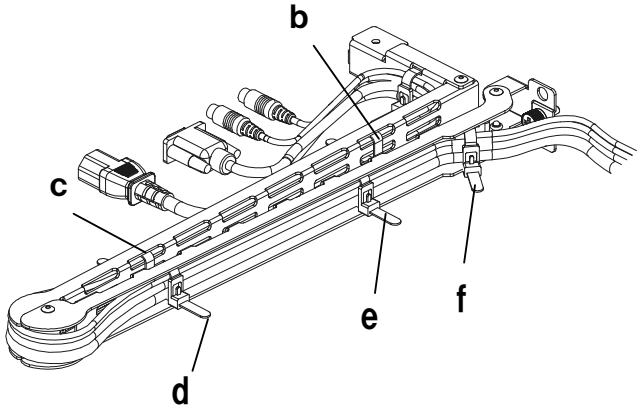
・モニタケーブル、キーボード・マウスケーブルには、ケーブルマネージメントの a 部の固定位置を示す白色のマーキングがあります。

・電源ケーブルにはマーキングがありませんが、モニタケーブルのハウジング先端と電源ケーブルブッシュ部の付け根を合わせ、a 部で固定することで、ラック・コンソール背面に接続した際、コードのたるみのない取り付けが可能となります。

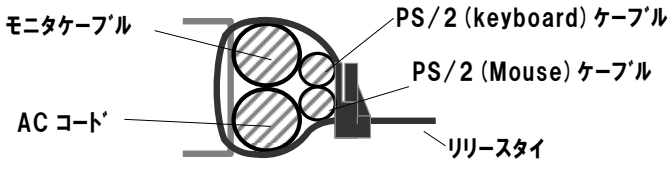
・ケーブルマネージメントを折りたたみ、ケーブルがたるまない状態で固定してください。



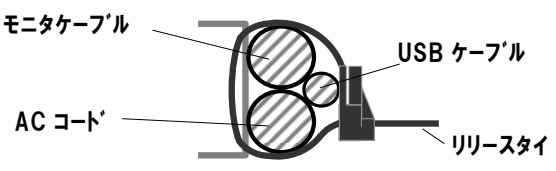




・ケーブルの配置は、図のように電源ケーブルを下側、モニタケーブルを上側にし、その横に、キーボード・マウスケーブルを配置してください。（図は、a 部の固定を示す）



キーボード・マウスケーブルが PS/2 の場合



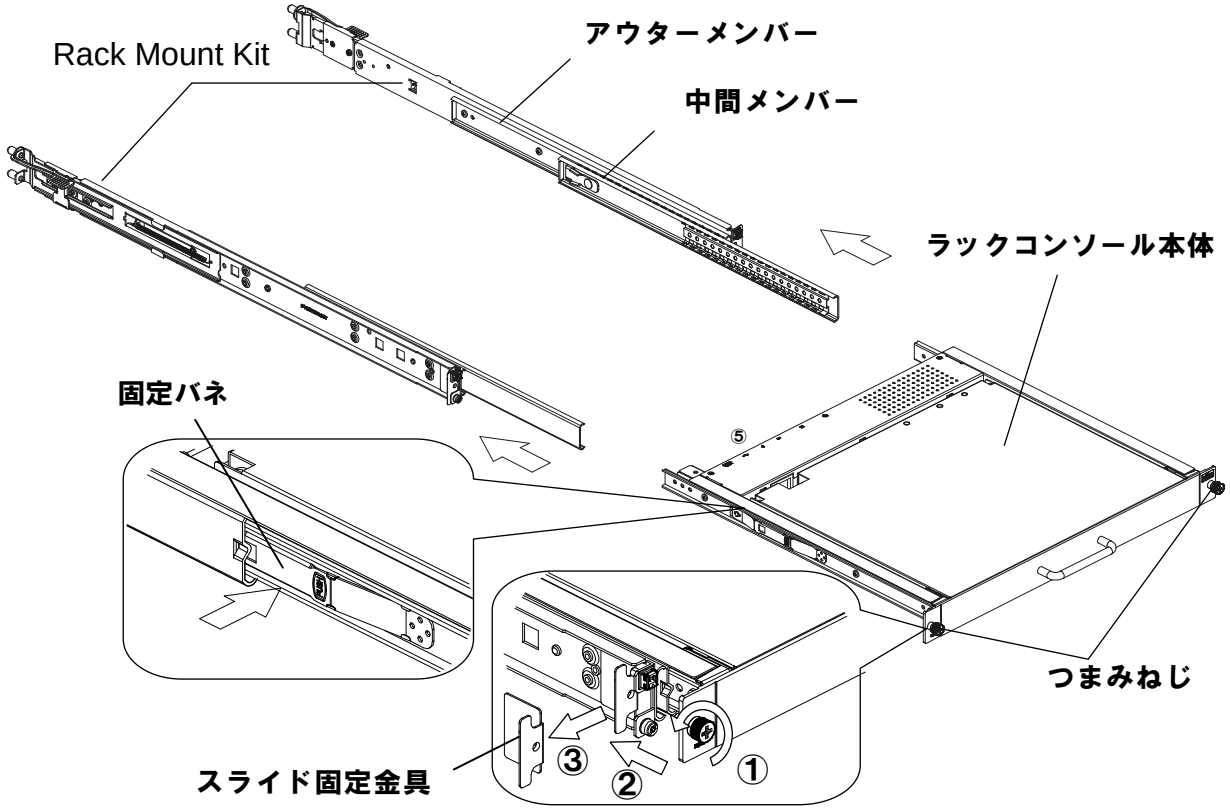
キーボード・マウスケーブルが USB の場合

Point ケーブルは、ケーブルマネージメントを折りたたんだ状態で、
各固定ポイント間にたるみがないよう固定してください。
たるみがある場合、搭載時の垂れ下がりの原因となります。

7－2－2. Rack Mount Kitの取り外し

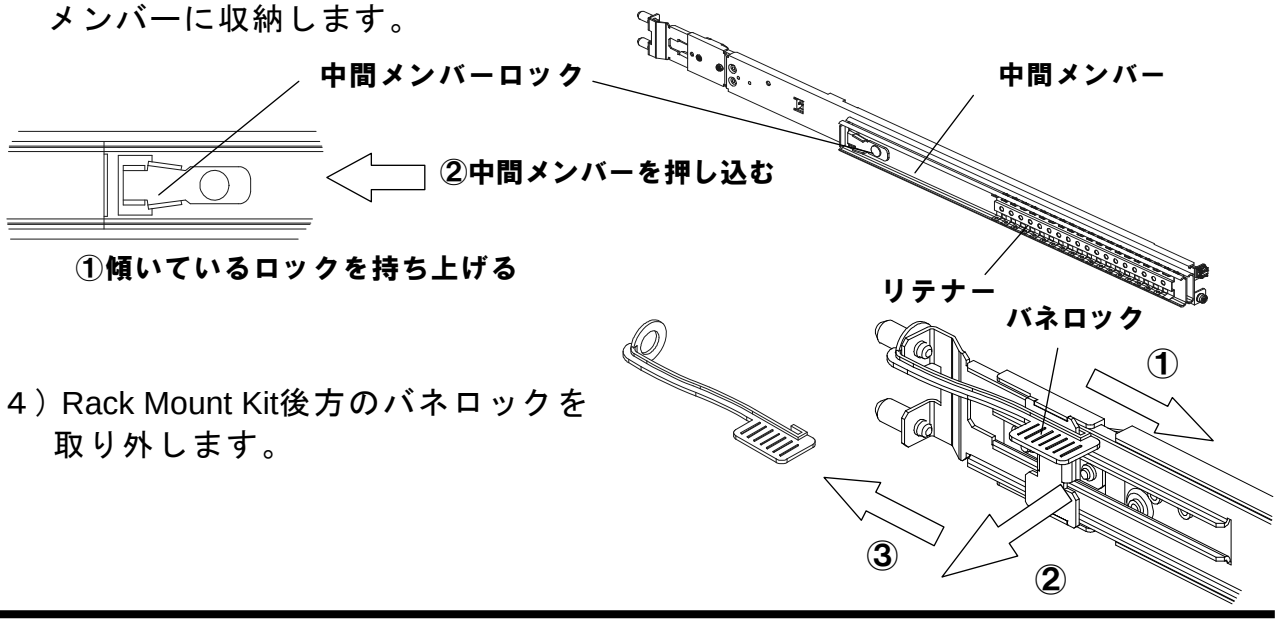
（1）フロントのつまみねじを回し、スライド固定金具を取り外します。（左右 2 箇所）

（2）Rack Mount Kitを取り外します。固定バネを押し、ロックを解除し、後方へ引き抜きます。



Rack Mount Kit取り外し図

（3）スライドレールの中間メンバーロックを解除(①)し、中間メンバーをアウターメンバーに収納します。



（4）Rack Mount Kit後方のバネロックを取り外します。

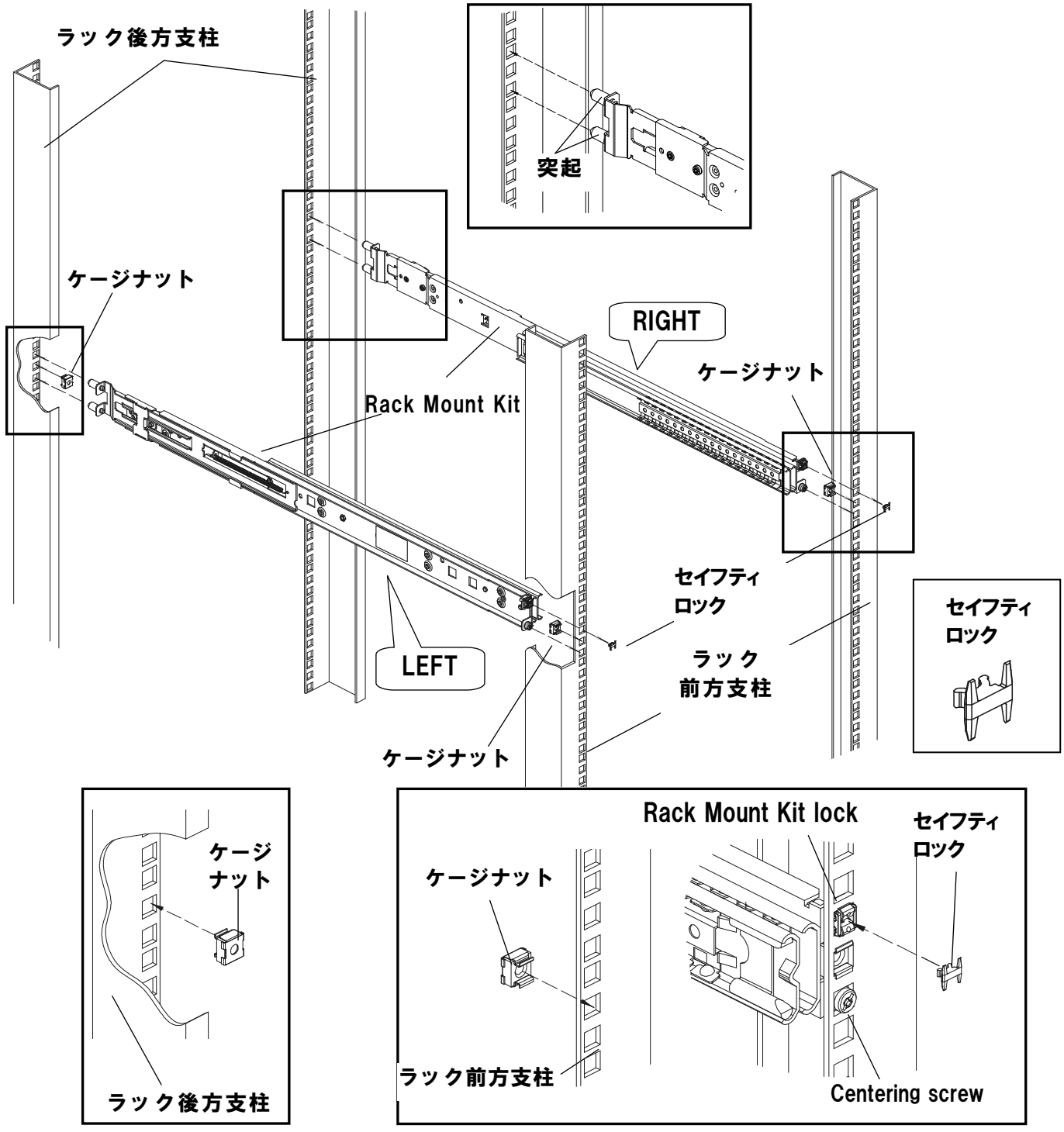
7－2－3. Rack Mount Kit の取り付け

（1）ケージナットをラック前方支柱の左右に各1個、後方支柱の左に1個取り付けます。

（2）Rack Mount Kit後方の2つの突起をラック後方支柱に挿入します。
Rack Mount Kit には、左右の指定があります。側面の LEFT/RIGHT 表示をお確かめの上、ラックへの取り付けを行なってください。

（3）Rack Mount Kitを水平に保ち、ラック前方支柱に組み込みます。
Rack Mount Kit lockおよびCentering screwがラック前方支柱に確実に挿入されていることを確認してください。

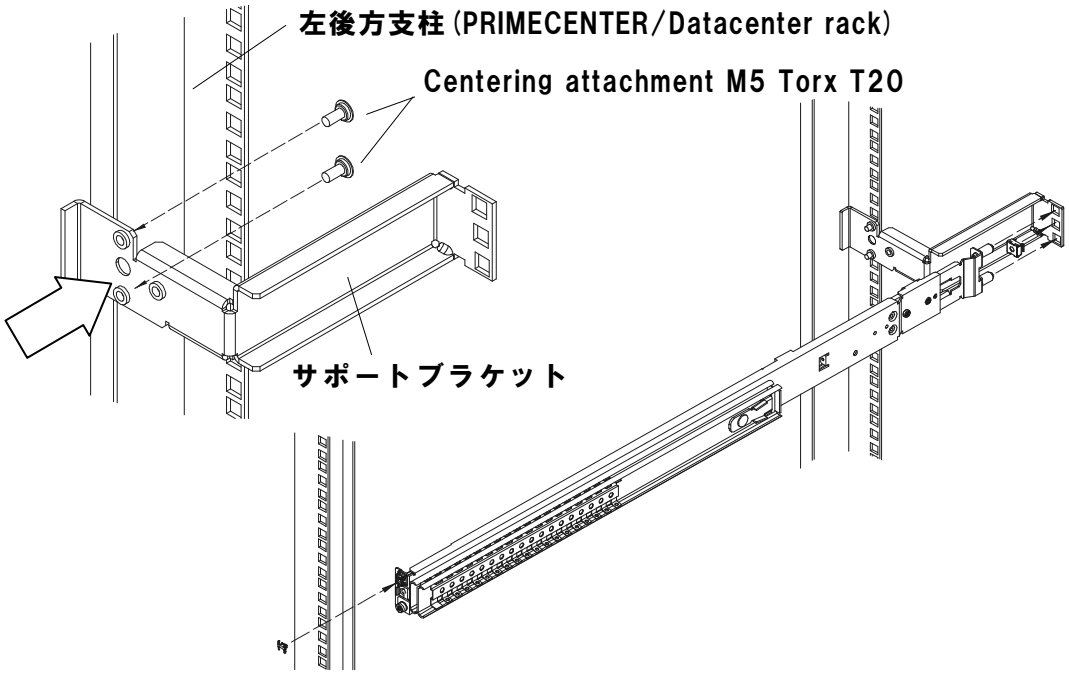
（4）Rack Mount Kit前方のRack Mount Kit lockにセイフティロックを挿入します。



＜PRIMECENTER/Datacenter rack への搭載の場合＞

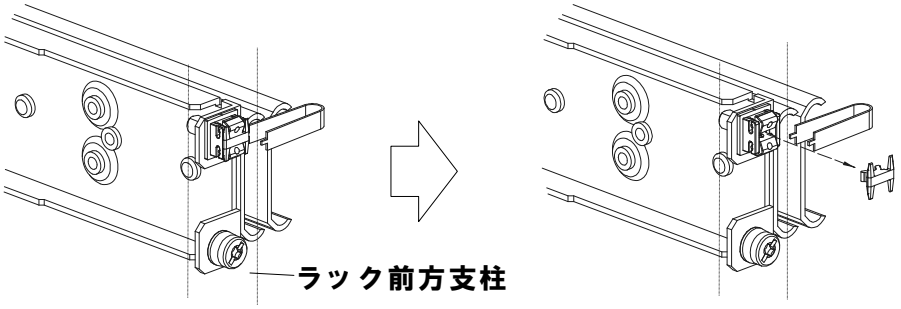
（１）サポートブラケットを Centering attachment(M5 Torx T20) 2 個を使用し、左後方支柱に取り付けます。

（２）Rack Mount Kitを取り付けます。
取り付け方は、前記の作業に従ってください。

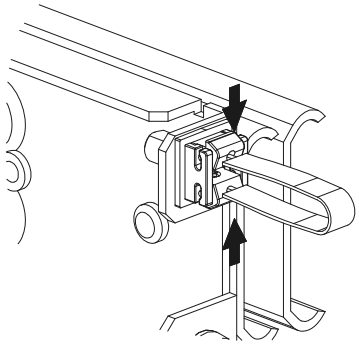


＜Rack Mount Kit の取り外し方＞

（１）図のようにアンロック治具をRack Mount Kit lockとセイフティロックの間に差し込み、セイフティロックを取り外します。

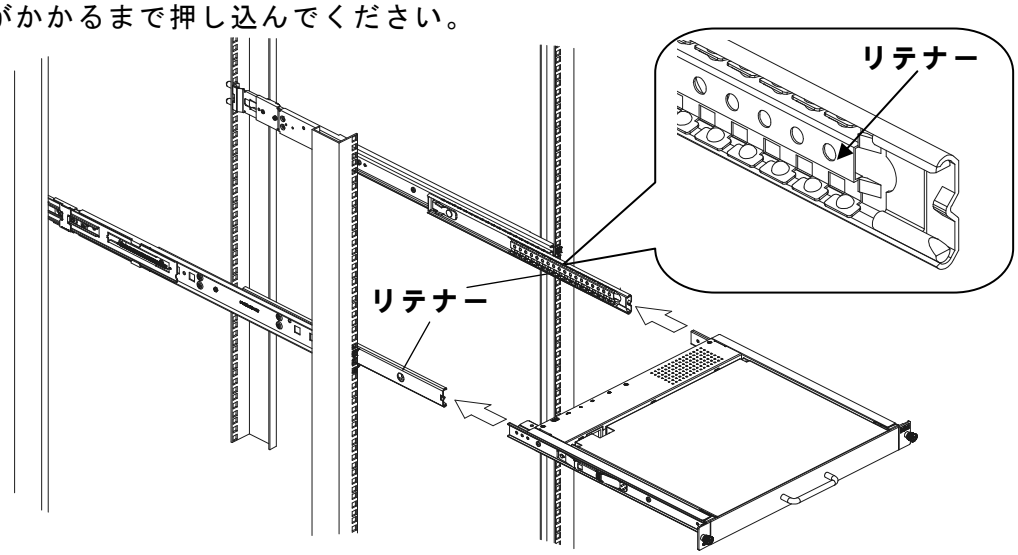


（２）Rack Mount Kit lockの穴にアンロック治具を差し込み、ロックを解除し、Rack Mount Kitをラック前方支柱から取り外します。



7－2－4. ラック・コンソールの挿入

（1）スライドレールの中間メンバーを中間メンバーロックがかかるまで引き出します。
（2）左右のリテナーを手前いっぱいまで引き出します。
（3）ラックコンソールをスライドレールに挿入します。このときスライドレールの
ロックがかかるまで押し込んでください。

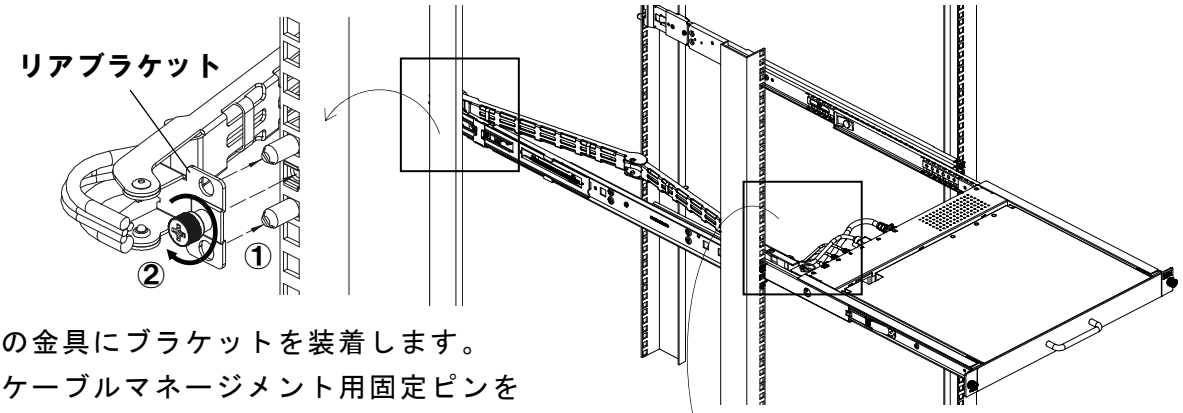


⚠ 注意

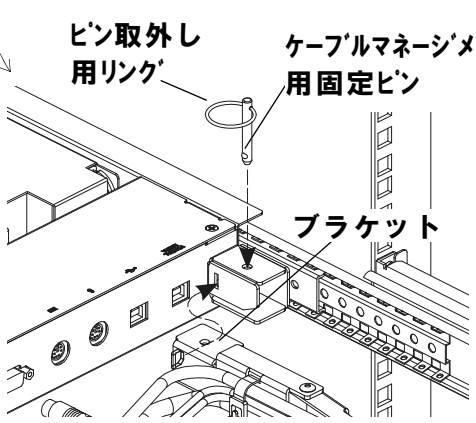
搭載の際はハンドルを持たないように注意してください。LCD部が開き本装置が落下するおそれがあります
本装置を運搬する際は、しっかりと装置底部を持って運搬して下さい。

7－2－5. ケーブルマネージメント部の取り付け

（1）5 ページ「ケーブルマネージメント部の組立」で組み立てたケーブルマネージメントのリアブラケットをラック後方左側支柱の Rack Mount Kit リア突起に装着し、つまみねじで固定します。

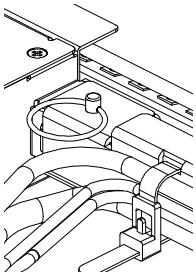


（2）本体背面の金具にブラケットを装着します。
（3）通し穴にケーブルマネージメント用固定ピンを装着します。ボールロックがかかるまでピンをしっかり押し込んでください。



⚠ 注意

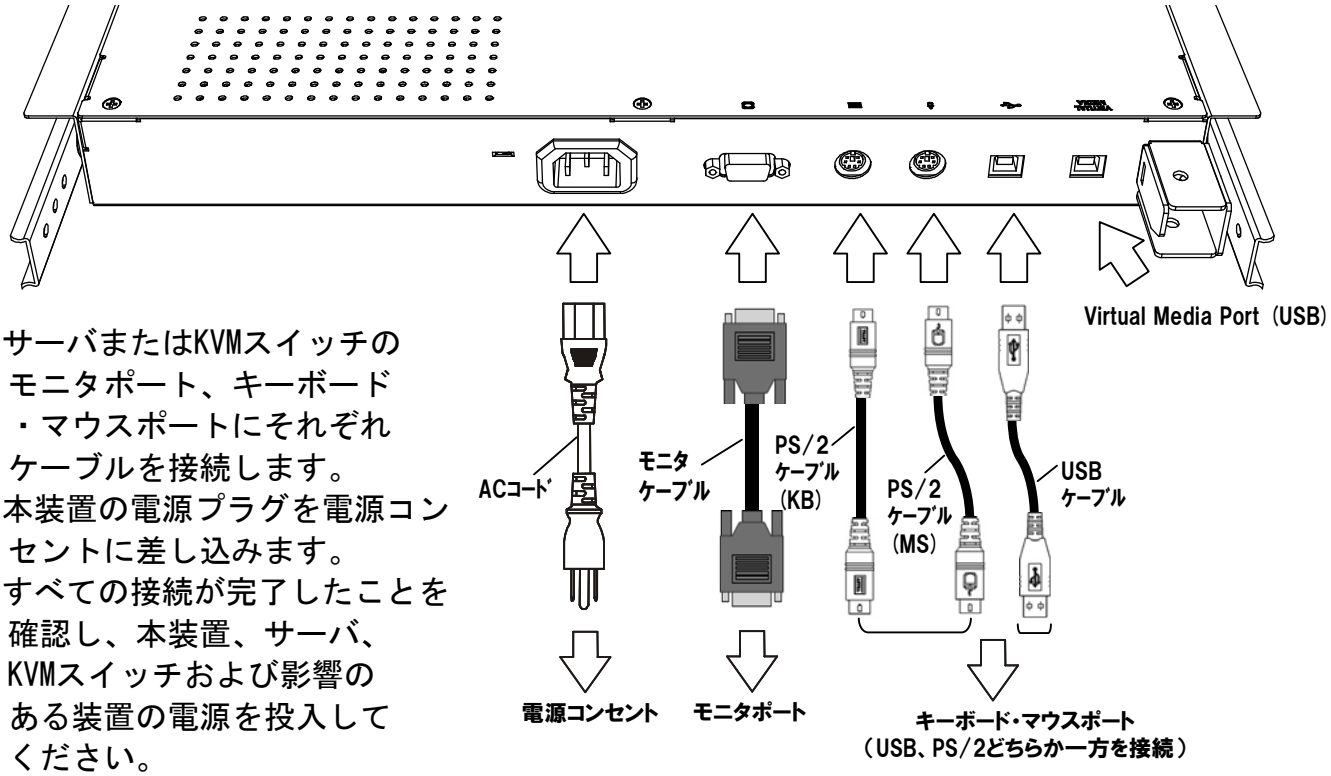
ピンを取り付け後、ピン取外し用リングは、ラック･コンソール本体や Rack Mount Kit に乗り上げた場合、ラック･コンソール本体が収納できない可能性がありますので、必ず、図のように装置の中央に向けて倒してください。



8.ケーブルの接続と取り外し

8－1. ケーブルの接続

(1)影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜きます。
(2)PS/2またはUSBケーブル、モニタケーブルを本装置に接続します。
Virtual Media Port(USB)は、Virtual Media 機能を持つ KVM スイッチ（別売）を本装置と接続する際に使用するポートとなります。詳しくは、ご使用になる KVM スイッチの取扱説明書をご参照ください。
(3)電源ケーブルを本装置の電源ソケットに差し込みます。

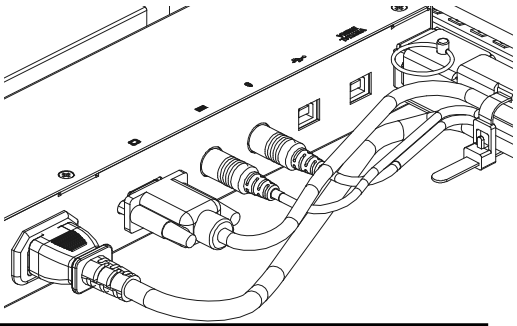


本装置後面のケーブル接続図

(4)サーバまたはKVMスイッチのモニタポート、キーボード・マウスポートにそれぞれケーブルを接続します。
(5)本装置の電源プラグを電源コンセントに差し込みます。
(6)すべての接続が完了したことを確認し、本装置、サーバ、KVMスイッチおよび影響のある装置の電源を投入してください。

Point

・ 本装置へのケーブル接続は、図のように、
・電源ケーブルを一番下
・モニタケーブルを一番上
とし、たるみなく配線してください。
・モニタケーブルを本装置に接続した際、ケーブルがつっぱる場合、長さを調整してください。



⚠ 注意

キーボード・マウスケーブルは、必ず、PS/2 もしくは USB のどちらか一方を選択し、接続してください。
両方同時に接続し、キーボード・マウス動作に不具合が発生した場合、サーバを再起動させる必要があります。

８－２. ケーブルの取り外し

影響を受ける装置すべての電源プラグを電源コンセントから抜いてから、各ケーブルを取り外してください。

9.KVM スイッチの組み込み

組み込み可能な KVM スイッチについては、お買い求めの販売店または弊社担当保守員にご確認ください。

⚠ 注意

- KVM スイッチ組み込み時、感電やショートのおそれがあるので、本装置の電源ケーブルが電源コンセントに接続されていないことを確かめてください。
- 本装置内部には、高電圧を発生、蓄積する部分があります。必ず、放電を確認した後、作業をおこなってください。
- 金属製のエッジ(端部)部で手などを切らないように注意してください。
- 破損の原因になりますので、内部に異物（金属片・水・液体など）が入らないように注意してください。また、必要のない場所には触らないでください。

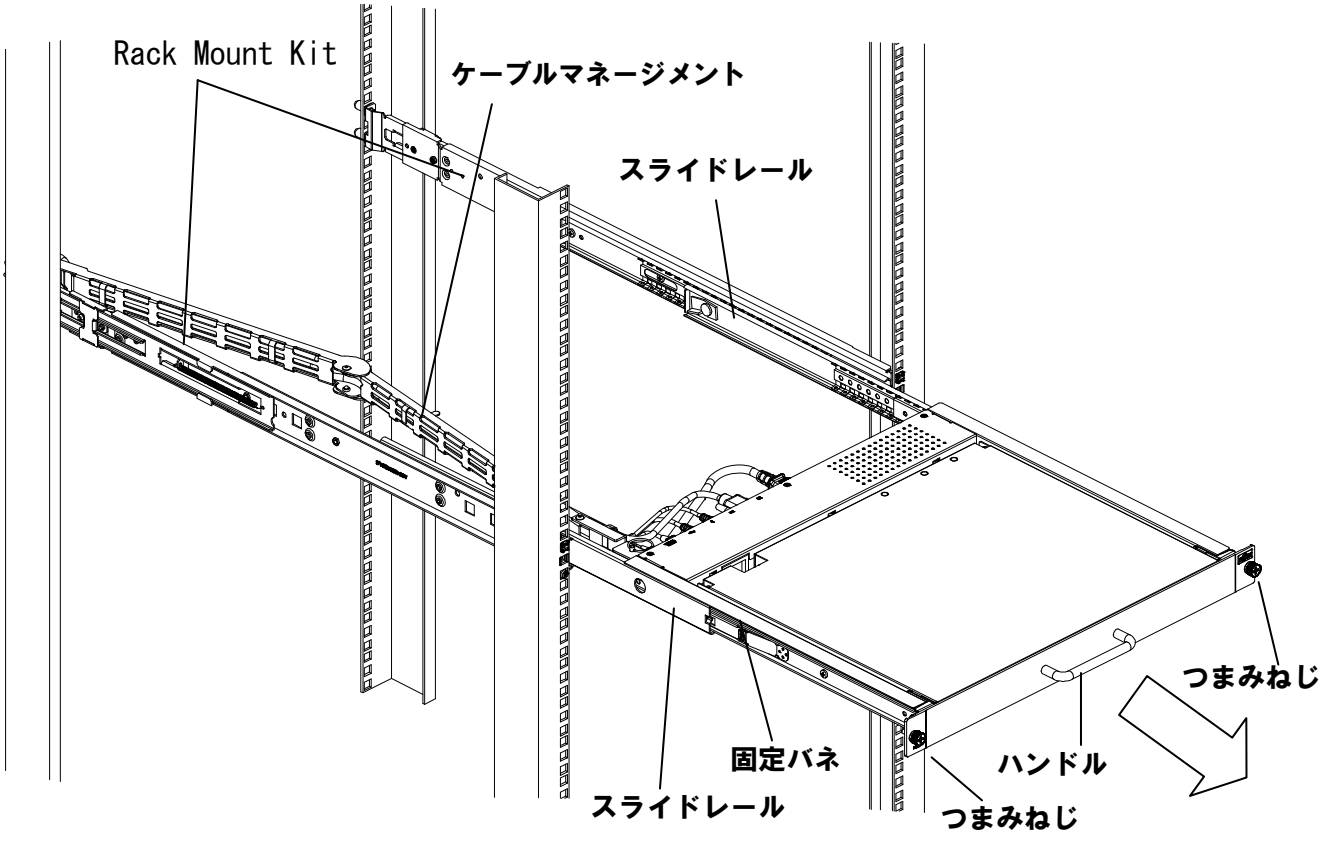
10.操作

⚠ 注意

・本装置は、スライドレールがロックされるまでゆっくり手前に引き出してください。ロックされていない場合、もたれ掛かると本装置は動いてしまいます。ラックコンソールの引き出し、押し込み時やLCDの開閉時などを実施する際には手を挟まないよう十分注意して実施してください。
・本装置を引き出しているときやモニタ部を開いていて使用している場合に、強い力を加えると、ラックが転倒するおそれがありますので注意してください。
・モニタ画面を強く押したり、硬いものでこすったり、磁石などを近づけないでください。破損の原因になります。
・本装置を引き出した状態では、装置の角などにぶつかると危険ですので十分注意して操作してください。
・本装置を使用しない時や本装置以外の操作(サーバや周辺機器など)を実施する場合には本装置をラック内に格納することを推奨します。

10－1. 本装置の操作

（1）本装置前面両側2つのつまみねじをはずします。ハンドルを持って本装置を引き出します。本装置は、カチッと音がするまで引き出してください。

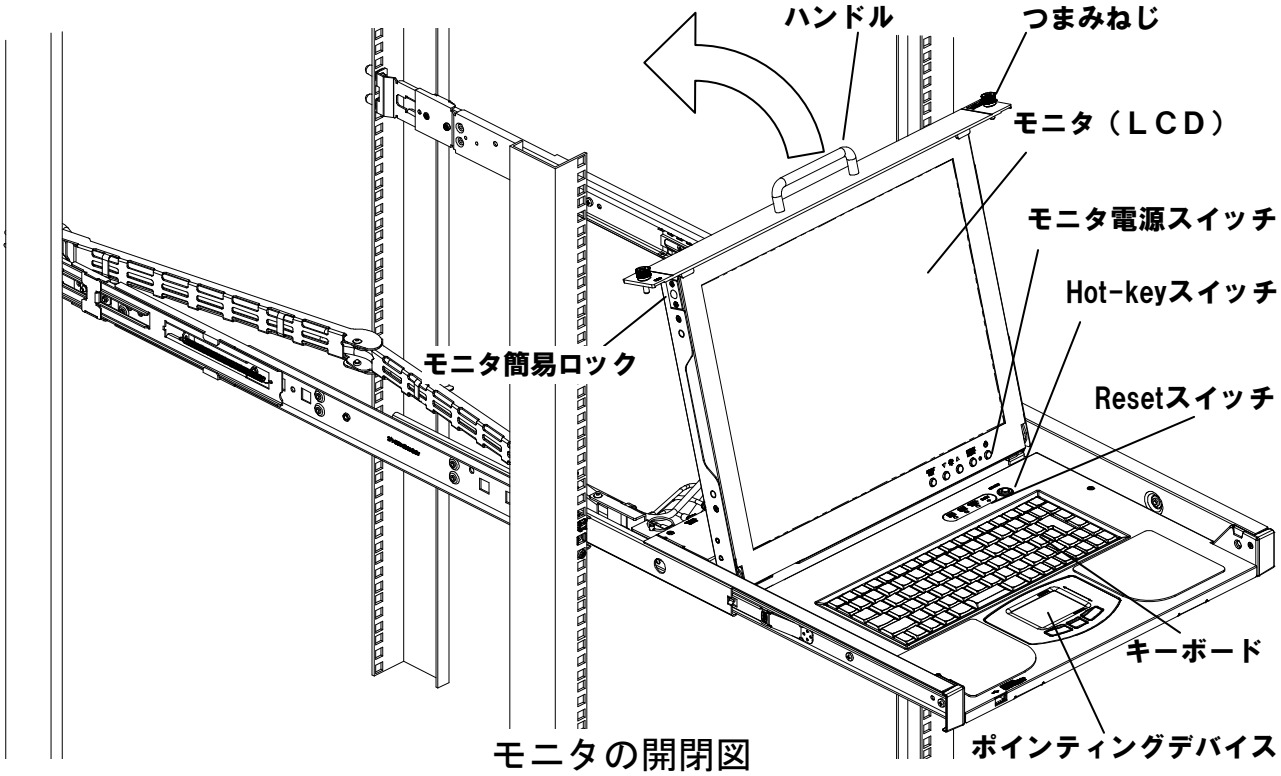


ラック・コンソール引き出し図

（２）ハンドルを持ちモニタを上側に開きます。
（３）電源ボタンを押して、モニタの電源を入れます。

Point モニタ部は完全に引き起こしてください。

⚠ 注意 モニタを上側に開く際に、片手での操作では引き起こせない、または重い場合、両手で操作を行なってください。



モニタの開閉図

１０－２. 本装置の格納

モニタとキーボードを使用しない場合は、本装置をラックに格納することができます。

Point 本装置の出し入れはゆっくりとおこなってください。

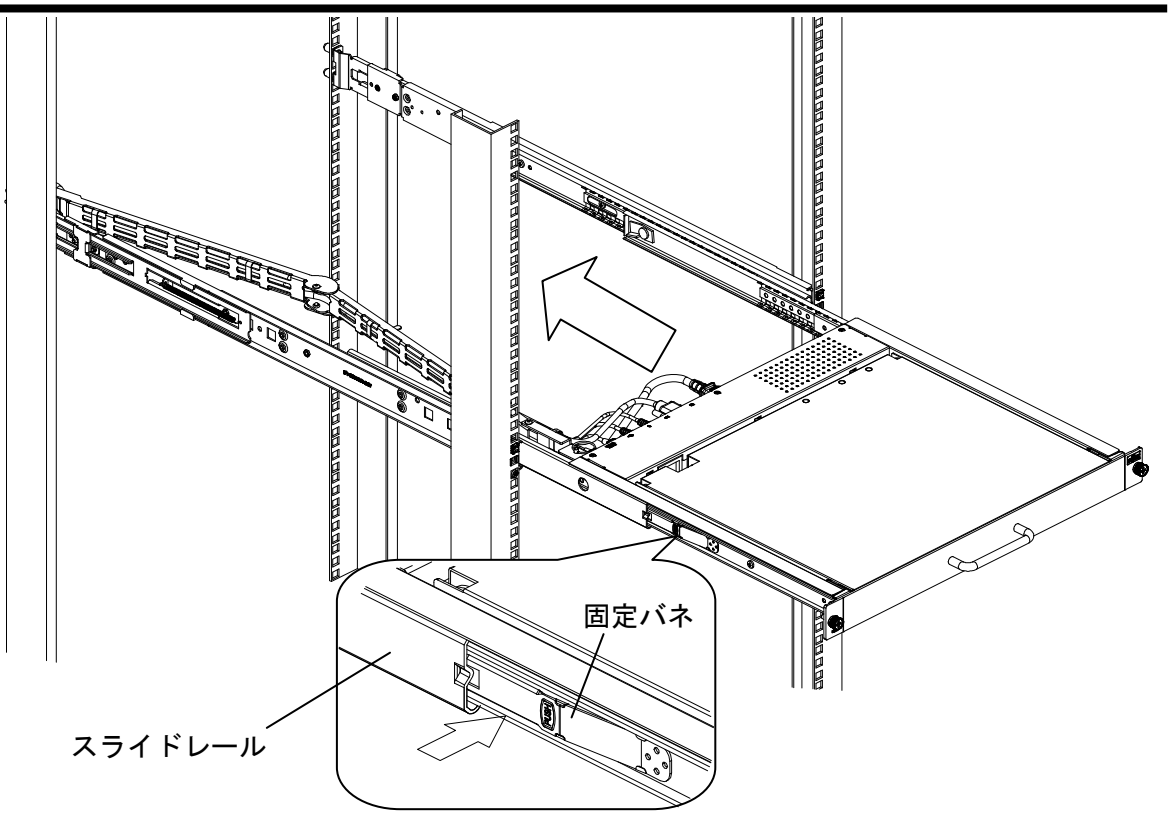
1. モニタの電源ボタンを押して、モニタの電源を切ります。
2. フロントのUSBポートに何も取り付けられていないことを確認の上、ハンドルを持ってゆっくりとモニタ部を閉じます。モニタ簡易ロックが掛かったことを確認します。
3. スライドレール両側の固定バネを押して本装置をラックに押し込みます。
4. フロント両端のつまみねじを締めてください。

⚠ 注意

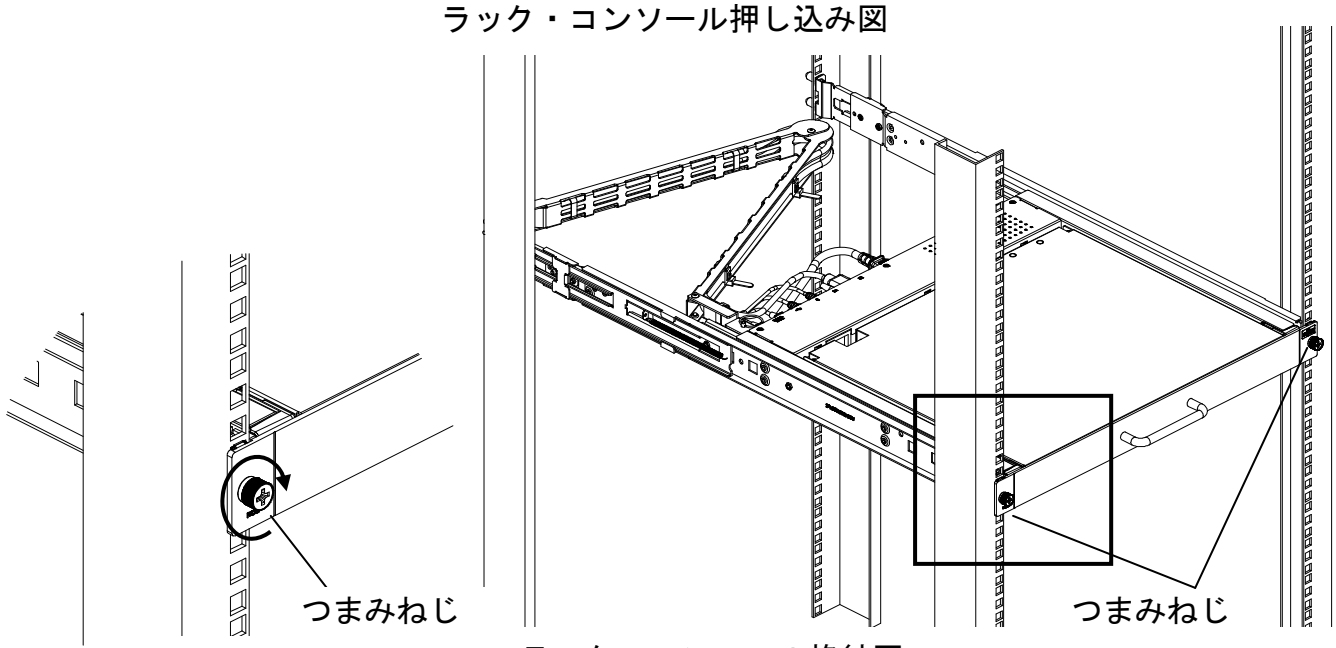
本装置を格納する場合、スライドレールや本装置に指や手を挟まないように注意してください。

Point

モニタをご使用にならないときは、省電力およびモニタの長寿命化のためモニタの電源を切るかラックに格納することを推奨します。
本装置をラックに格納すると自動的にモニタの電源が切れます。



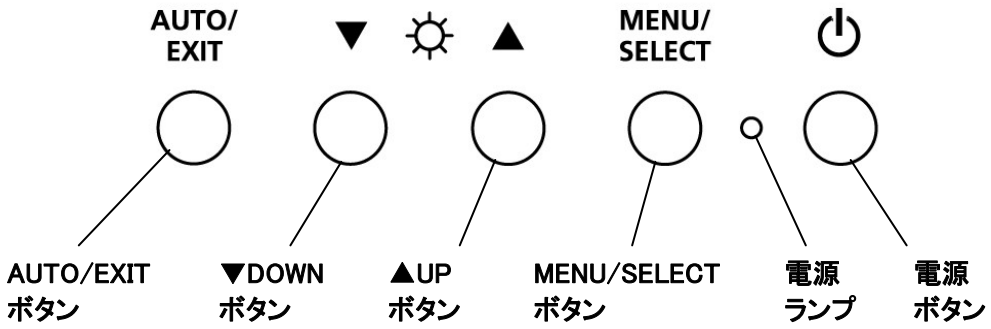
ラック・コンソール押し込み図



ラック・コンソール格納図

10－3. モニタの調節

モニタ部には、1つのLEDと5つのボタンがあり、右から順番に説明します。



電源ボタン： モニタの電源を入れるときに押します。また、電源が入っているときに押すとモニタの電源が切れます。

電源ランプ： モニタの電源が入っているときに青色に点灯し、省電力状態の時は橙色に点灯します。モニタの電源が切れていると消灯します。

MENU/SELECTボタン： メニュー画面の表示、調整項目の決定、設定値を保存する場合に押します。

▲UPボタン： 右方を選択するときや値を増やす方向に変化させる場合に押します。

▼DOWNボタン： 左方を選択するときや値を減らす方向に変化させる場合に押します。

AUTO/EXITボタン： メニュー画面の消去、調節項目の取り消し、設定値の取り消し、自動調節する場合に押します。

Point

メニュー画面を表示させずに、▲、▼ボタンを押すと画面の明るさ(Brightness)を直接調整することができます。

メニュー画面を表示させずに、AUTO/EXIT ボタンを押すと自動調整(POSITION と FOCUS) を行います。

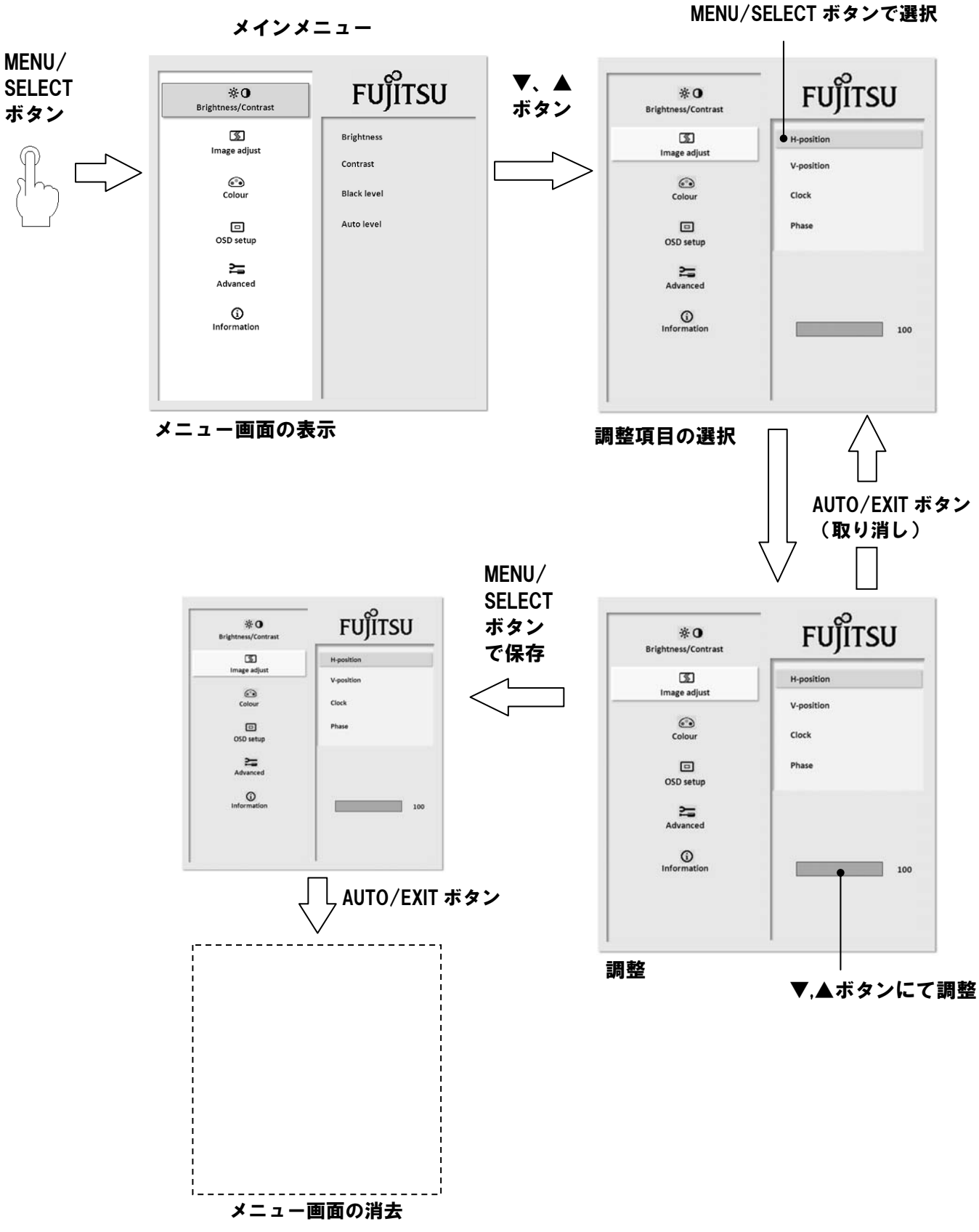
ダイレクト選択

▼▲ボタン

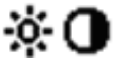
AUTO/EXIT ボタン

10－4. 基本的な調整方法

基本的な調整方法を下図に表します



10－5. 調整項目

記号	英語表示	調整内容
	Brightness /Contrast	Brightness（画面全体の明るさ)、Contrast（画面全体の濃淡の強さ（ｺﾝﾄﾗｽﾄ)）を調整します。
	Image adjust	H-position（画面の水平位置）,V-position（画面の垂直位置）,Clock（画面の水平サイズ）,Phase（画面のフェーズ）を調整します。
	Colour	画面の表示色を調整します。固定値の設定や赤/ 緑/ 青の色合いを個別に設定できます。
	OSD setup	Language（表示言語）の変更（英語,ﾄﾞｲﾂ語,ｲﾀﾘｱ語、ﾌﾗﾝｽ語、ｽﾍﾟｲﾝ語、日本語）および OSD H-position、OSD V-position、OSD timeout を調整します。
	Advanced	Sharpness の調整および Factory Recall（ご購入時の設定値）を実行します。
	Information	現在表示されている解像度、垂直同期周波数およびＨ極性、Ｖ極性の設定値を表示します。

10－6. 解像度とリフレッシュレート

解像度	水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)	モード
640×400	31.5	70	VGA 400 LINE
640×480	31.5	60	VGA Standard
	37.5	75	VESA
	37.9	72	
720×400	31.5	70	
800×600	35.2	56	
	37.9	60	
	46.9	75	
	48.1	72	
1024×768	48.4	60	
	56.5	70	
	60.0	75	
1280×1024	64.0	60	
	80.0	75	
1152×900	61.8	66	UNIXサーバー
	71.8	76	
1280×1024	71.7	67	

10－7. LCD の表示に関する注意事項

・電源投入直後やOS 起動時または終了時には画面の表示位置がずれたり、画面が点滅したり、乱れたりすることがありますが故障ではありませんのでそのままご使用ください。
・1280 ×1024 以外の解像度もすべてフルスクリーン表示となります。
・1280 ×1024 以外の解像度では、文字の輪郭がはっきり見えなかったり、細かなストライプの太さが揃わなかったりすることがあります。
これは、擬似的に拡大表示（フルスクリーン表示）しているためであり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。
・画面上の一部に点灯しないドットや常時点灯するドットが存在する場合がありますが、液晶ディスプレイの特性であり、故障ではありませんのでそのままご使用ください。

１０－８. キーボードの操作

Fnキーとの組み合わせにより、省スペースながらフルキーボードと同等の操作が可能です。

- Fnキーとアンダーバー付きキーを同時押下すると、アンダーバーの付いている機能が有効になります。(例　日本語キーボードの場合、Scr Lk、Prt Sc、SysRq)
- Num Lock LEDが点灯中の時に□囲み文字が有効になります。
- Pauseキーを押下したままＡキーを押下することによってSolaris SUNにおいてOpen boot緊急時の中止コマンドSTOP Aをエミュレートします。

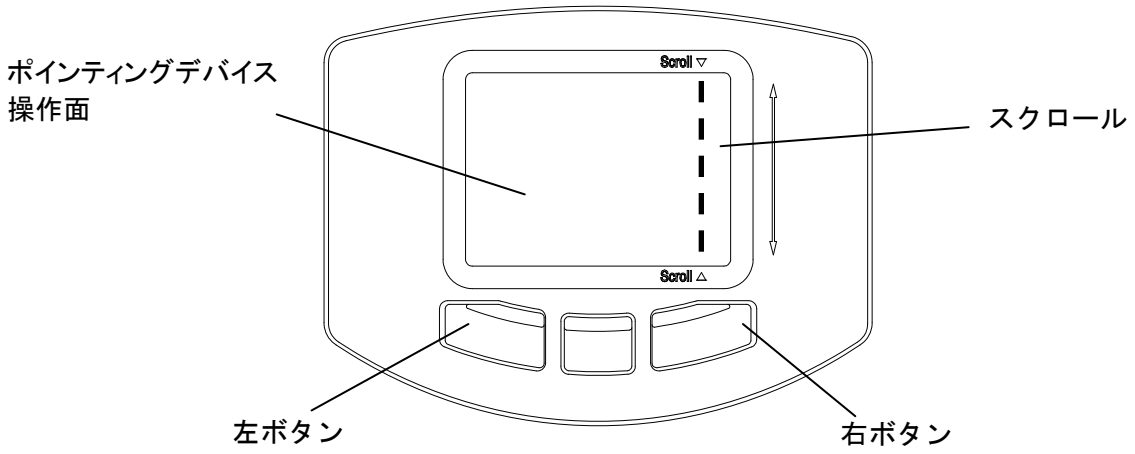
Fn キーおよびアンダーバー付きキー
□囲みキー

キー配列図（日本語キー配列）

10－9. ポインティングデバイスの操作

指で操作面上を軽く滑らせる、また軽く叩く事で操作してください。

ポインタの移動　：操作面上を動かしたい方向に軽く滑らせるだけでOKです。
シングルクリック　：操作面を軽く一度たたく（タップ）、または左ボタンを一度クリックします。
ダブルクリック　：操作面を軽く二度タップ、または左ボタンを二度クリックします。
ドラッグ　：操作面を軽く二度タップします。2回目のタップの時に指を操作面から離さず希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。または、左ボタンを押しながら希望の位置まで操作面をなぞり、指を離します。
スクロール　：操作面の右端を上限に操作することで画面をスクロールすることができます。



⚠ 注意

・以下のような場合は動作しません。
① 手袋をした指での操作
② ペン、ボールペン、鉛筆などでの操作
③ 2 本以上の指での操作
④ 異物を操作面に載せたままでの操作
⑤ 操作面に水滴が付着していたり、結露していたりする場合、濡れた指、汗で湿った指で操作した場合、正常に操作できない場合があります。十分乾燥させるか拭き取ってから使用してください。

・傷の原因となりますので、ペンなどの先のとがった金属で操作しないでください。

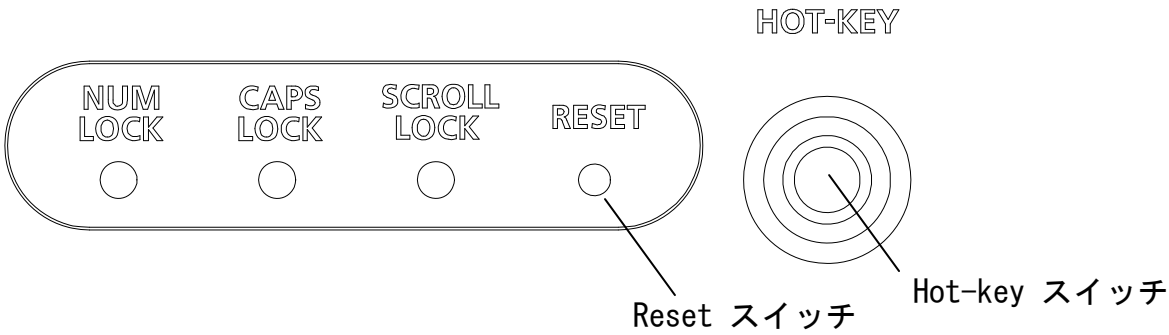
10－10. Hot-key スイッチと Reset スイッチについて

Hot-key スイッチ

【Ctrl】キーのMake/Break コードを2回出力します。また、KVMスイッチを接続した場合は、ホットキーモードになります。

Resetスイッチ

本装置のキーボード、ポインティングデバイスにReset がかかります。
また、KVMスイッチを接続した場合は、KVMスイッチにもResetがかかります。



なお、操作可能なKVMスイッチについては、お買い求めの販売店または弊社担当保守員にご確認ください。

11.トラブルシューティング

本装置のご使用に際して何か困ったことが起きた場合は、以下の内容をお調べください。

1.画面が表示されない

症状	考えられる原因	対処方法
電源ランプが消灯している。	電源ケーブルが正しく接続されていない。または奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを正しく奥まで確実に接続してください。
	電源が入っていない	電源ボタンを押してください。
電源ランプがオレンジ色に点灯している。またはMENU/SELECTボタンを押すと「Signal Going to Sleep」のメッセージが表示される。	サーバがスタンバイ状態になっている。	キーボードのどれかのキーを押すかポインティングデバイスを動かしてください。スタンバイ状態が解除されます。
	モニタケーブルがサーバ本体に、正しく接続されていない。	サーバ本体にモニタケーブルを正しく接続してください。
電源ランプが点灯するが、画面が表示されない。 場合によっては以下のメッセージも表示される。 「Frequency out of range: **kHz/**Hz please change the display mode to 1280x1024 with 60Hz」	サーバ本体より後に本装置の電源を入れた。	サーバ本体と同時またはそれ以前に本装置の電源を入れてください。
	モニタケーブルが、サーバ本体に正しく接続されていない。	サーバ本体にモニタケーブルを正しく接続してください。
	標準表示仕様以外の解像度とリフレッシュレートになっている。	サーバ本体の電源を落とし、再び、電源を入れてください。
画面にちらつきがある場合 （KVMスイッチ組み込み時）	モニタケーブルが、サーバ本体に正しく接続されていない。	サーバ本体にモニタケーブルを正しく接続してください。

2.画面がおかしい

症状	考えられる原因	対処方法
格子状の表示画面がちらつく。	フォーカスが合っていない。	フォーカス調整してください。
縦帯状の縞模様が見えることがある。	画面の調節が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
表示がはみ出る。 または、画面いっぱいに表示されない。	画面位置の調節が適切でない。	クロックの調整を行ったあとに画面位置の調整を行ってください。
	標準表示仕様以外の解像度（モード）になっている。	サーバ本体の設定を標準表示仕様の解像度（モード）に変更してください。
画面が消えることがある。	ACコードが奥まで確実に接続されていない。	電源ケーブルを奥まで確実に接続してください。
文字の太さが場所によって異なる。	フォーカス、クロックの調整が適切でない。	クロックの調整をしてからフォーカスの調整をしてください。
	1280X1024より低い解像度になっている。	デジタル処理で擬似的に拡大処理しているので文字の太さが異なる場合があります。 最適な画面するには「画面のプロパティ」で解像度を1280X1024に設定してください。
画面にちらつきがある。	1280X1024より低い解像度になっている。	解像度を1280X1024以外で使用する時に、場合によっては画面に多少のちらつきが出ることがあります。その時は、リフレッシュレートの設定を変更ください。

3.画面調節ができない。

症状	考えられる原因	対処方法
AUTO/EXITボタンによる自動調整ができず、以下のメッセージが表示されない。 「AUTO Processing」	画面全体が極端に暗い色に設定された状態で自動調整を行われた。	表示画面全体を出来るだけ白画面にして、AUTO/EXITボタンを押して自動調整を行ってください。

12.本装置のお手入れ

⚠ 注意

モニタの電源を切り、電源ソケットから電源プラグを抜いてください。
研磨剤を含む清掃剤やベンジン、シンナーなどの有機溶剤、消毒用アルコールは使用しないでください。
水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や破損の原因になります。

・本装置とモニタの筐体は、乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときには、水に浸したやわらかい布をよく絞って拭きとってください。
ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

・キーボードとポインティングデバイスを清掃するには、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭きとってください。汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。
ほこりはやわらかいブラシで取り除いてください。

・モニタ画面は、ガーゼなどの乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。
ほこりはやわらかいブラシなどで払ってください。

13.環境への配慮のお知らせ

本装置の所有者が事業主の場合には、本装置を廃棄する際にマニフェスト伝票（廃棄物管理表）の発行が義務付けられております。弊社では、富士通リサイクルシステムを構築し全国的に運用しておりますので、廃棄の際には次の URL にお問合わせ願います。

お問合わせ／お申し込み先：富士通リサイクルシステム
(http://eco.fujitsu.com/jp/5g/products/recycleindex.html)

なお、法人・企業以外のお客様は、お申し込みできません。
使用済みの製品を廃棄される場合は、上記のようにリサイクルにご協力ください。

なお、本装置の所有者が個人の場合にはマニフェスト伝票の発行義務はありません。

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。
廃棄方法につきましては、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

14.技術仕様

型名：　　RC25/PG-R4DP1

●電気仕様

定格電圧範囲	100V-240V AC
周波数	50／60Hz
定格電流	100V／0.65A　240V／0.5A

●外形寸法

Rack Mount Kit	15mm(W)×708～786mm(無段階で調節可能) (D)×43.4mm(H)
本体部 (ハンドル含む、リア突起含まず)	(W)　(D)　(H)
(1)LCDを閉じた状態	486mm × 444mm × 42.5mm
(2)LCD 引き起こした状態	486mm × 410mm × 372mm
(3)スライドレール引き出し量	480mm

●質量

質量 （ケーブルマネージメント,ケーブル含む）	14kg

●環境条件

動作温度	10 ～ 35 ° C
動作湿度	20% ～ 80%
保存温度	-5～ 50 ° C
最高湿球温度	29℃ 使用時の結露は避けてください。 サーバの環境条件に準ずる

●モニタ

パネルタイプ	17 インチ、TFT カラー液晶
解像度	最大水平1280（ドット）×垂直1024（ライン）
ドットピッチ	0.264 ×0.264mm
リフレッシュレート	最大 75Hz
表示色	最大 1,677万色 （ディザリング）
輝度	250cd ／m^2(Typ)
コネクタ	ミニD-SUB 15 ピン（アナログRGB ）
消費電力	最大25W 以下 省電力時 3.0W 以下 電源スイッチOFF時 3.0W 以下

●キーボード

配列：	日本語
キー数：	92 キー
コネクタ：	PS/2,USB いずれか1つを選択

●ポインティングデバイス

方式：	静電式タッチパッド
分解能：	220cpi （文字／インチ）
付加機能：	上下スクロール
コネクタ：	PS/2,USB いずれか１つを選択
ボタン数：	2 ボタン

●その他

Virtual Media port	Virtual Media機能を持つＫＶＭスイッチの同ポートに接続時使用 USB2.0 High speed

●認証規格

EN 60950-1 2nd Edition CSA/UL 60950-1 2nd Edition EN55022:Class A EN55024 EN61000-3-2 EN61000-3-3 FCC Class A VCCI Class A NOM IRAM C-tick	

１７インチ ラック・コンソール（RC25）/PG-R4DP1

取扱説明書

発行日　　2010年9月　第１版

発行責任者　　富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。

NC14010-L577 01 100913